

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 9月号

2017年9月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：與儀 篤（中部徳洲会病院）

今月の contents

研修報告	第19回日本医療マネジメント学会学術総会	1
圏域報告（北部地区）	第1回 北部地区医師会在宅医療・介護 連携推進会議報告	2
勉強会・研修のお知らせ	初任者・中堅者研修・めだかの学校	3
めだかの学校参加報告	認知症高齢者と自動車運転	4
コラム	目を開けて、もっと私をみて	5
運営委員会議事録	8月21日運営会議開催	6



第19回日本医療マネジメント学会学術総会

平成29年7月7日

豊見城中央病院地域連携室 仲地 貴弘

去る7月7日～8日に日本医療マネジメント学会学術総会が、七夕まつりで有名な仙台で開催された。メインテーマは「地域を守るあたかな医療～患者・職員の満足をめざして～」。全国各地から3000名を超える地域連携実務者が参加し多くの発表があった。全てを聞くことは困難であったが、地域連携に関するいくつかの演題を聞くことができた。そこで印象に残ったのが地域包括ケアシステム時代の連携の在り方である。

「地域包括ケアシステム」という言葉は、ほとんどのMSWや地域連携に従事する方は日に何度も聞いていると思う。さらに厚労省の作成した図が頭に浮かぶと思う。多くの方が急性期と慢性期、介護施設、行政、消防等が地域の中をつながり連携していくことをイメージしていると思う。私もそうであったが、

今回の一般演題の中で「社会連携」という発表を聞いた。地域包括ケアシステムの図を用いて医療介護連携から「社会連携へ」と述べていた。その発表では実例として急性期病院の医師と地元温泉企業がコラボして企画してできた「湯治プロジェクト」。また地元の料理家と病院の管理栄養士、地域の薬剤師がコラボしてできた「健康ごはんプロジェクト」。音楽家と歯科医師、言語聴覚士、呼吸療法士がコラボした「歌の力で健康を高めるプロジェクト」などの紹介があった。

病院というリソースを最大限に活用するには、院内だけでなく地域に出ていくことが必要なのだと考えさせられた。また、医療介護関係だけでなくNPO 団体や一般企業などの異業種との連携も重要だと感じた。同時に「地域包括ケア時代」の医療ソーシャルワーカーも病院の外へ活動を広げる必要があるのではないか。「社会連携」にどうMSWが関わっていくのか？今後の発展に期待できる有意義な学会であった。



圏域報告

北部地区医師会 第1回在宅医療・介護連携推進会議報告

勝山病院 地域連携室 山城 つきえ

平成29年8月2日18時30分から、やんばる在宅医療・介護連携事業推進委員会に参加しました。メンバーは北部地区医師会理事（診療所医師）、訪問看護師、介護支援専門員、北部コーディネーター、市町村担当者の9名でした。コーディネーターによる医療機関等の訪問、アンケート結果でも、入退院時の連携・情報の不足の意見が聞かれ、他の委員からは経鼻栄養の方の有料ホームや、施設の受け入れが困難なケース、生活保護の訪問看護が福祉事務所との事務手続がスムーズにいかず、サービス提供ができず困っている現状があると報告がありました。

委員会の目的、要綱、ネットワーク図の確認、今後“やんばるエチケット集、入退院連携ルール”の実用化に向け医療機関、在宅サービス事業所、市町村との調整、パンフレット作成予算の検討をしました。周知のための広報活動を事業の一環で進めたいとの意見あり、今後作業部会を立ち上げ多職種連携の研修含め検討していくことを確認しました。

2回目以降の委員会でさらに具体化されるよう、MSW、ケアマネとして発信していきたいとおもいます。（委員会メンバーには病院の所属者は含まれておらず、ケアマネ代表として参加しています。）



勉強会・研修のお知らせ

～平成 29 年 9 月（以降）の予定～

<初任者研修>

— 3回目 — 平成 29 年 10 月 1 日（日） 会場：仲地胃腸内科クリニック

時間	内容	講師
9 : 00	受付	
9 : 30-11 : 00	アセスメント	島袋恭子（那覇市立病院）
11 : 10-12 : 40	記録について	秦克之（中頭病院） 當銘由香（大浜第一病院）
13 : 40-15 : 10	退院援助① ～患者（家族）の思いを大事にしながら、退院援助に必要な視点・知識・方法について学びます～	伊禮智則（那覇市立病院）
15 : 20-16 : 50	退院援助② ～患者（家族）の思いを大事にしながら、退院援助に必要な視点・知識・方法について学びます～	
17 : 00	終了	

<中堅者研修> ※日程が 11 月 18 日（土）から変更になっています！

日時：平成 29 年 11 月 19 日（日） 9 : 30 受付 10 : 00～17 : 00

講師：小原真千子先生、福山和女先生

場所：那覇市立病院 3 階 講堂

内容：I S T T （対象は 5 年以上の経験者で県 SW 協議会 4 団体へ声掛け）

※チラシ&申込用紙は、出来上がり次第お送りいたします。

* 自主勉強会 *

<めだかの学校>

日時：平成 29 年 9 月 7 日（木）19 : 00～ 場所：中部徳洲会病院 1 階 講堂

内容：障害福祉について（就労支援員、計画相談員から学ぶ）

講師：安里是子氏（アソシアソーシャルトレーニング就労支援員）

就労支援についての取り組みを中心に講義

新里美鈴氏（アソシアソーシャルサポート計画相談員）

社会資源（介護給付と訓練給付などについて）



めだかの学校参加報告

平成 29 年度第 3 回めだかの学校 「認知症高齢者と自動車運転」

7 月 26 日 ハートライフ病院 相談室 川満 慎吾

今回は「認知症高齢者と自動車運転」というテーマにて北中城若松病院認知症疾患センターの PSW 富永氏にご講話頂きました。昨今、高齢者ドライバーの自動車事故とその対策が取り上げられている中、非常に興味深い内容でした。道路交通法の改正や認知症疾患センターでの相談ケース、今後の取り組み等、普段はあまり知りえない話も聞くことができ、とても有意義な勉強会となりました。

沖縄県は県外に比べ、より車社会ということもあり、車という移動手段がなくなることで外出や病院受診時に困ってしまう可能性が高いこと、独居高齢者や家族の協力がなかなか得られないような場合には外出機会(社会とつながる機会)が減ってしまうことが考えられます。免許証を返納もしくは取り消しとなった際の移動に対するサポートが追いついていない現状があること、今後ますます高齢者が増えていく中で早急に策を考える必要性を感じました。また認知症であっても身体的に元気な高齢者は少なくない中で、どうしても頭と体のギャップが生じてしまう現状があるかと思えます。そのような高齢者の運転免許の自主返納を誰が、どのように説明していくかも課題だと感じました。

富永さん、貴重なご講話ありがとうございました。



新入会員紹介

中部徳洲会病院 平良 有紗

初めまして、沖縄大学を3月に卒業し、4月より中部徳洲会病院に入職しました、平良有紗と申します。社会人として初めての仕事に戸惑う事や分からない事も多いですが、周りの先輩方に指導していただき、日々の業務に励んでいます。毎日が勉強の日々であり、1日1日あっという間に時間が過ぎていきます。

慣れない環境と知識不足に不安になる事も多くありますが、元気になり退院していく患者さんの笑顔を見ると、とてもやりがいを感じます。今後、退院支援をしていく中で、他の医療機関や福祉施設の方々と良い連携を図れるよう心がけていきたいです。宜しくお願いします。

中部徳洲会病院 伊佐 和香奈

初めまして、4月より中部徳洲会病院に入職しました、伊佐和香奈と申します。初めての職場・相談員として、毎日慣れない事だらけの毎日を過ごしています。特に、限られた時間の中で患者様やご家族の思いを汲み取り、それを多職種と共有し、より良い支援へ繋げる事が出来るか日々奮闘しています。これから先様々なケースに触れていくなかで、知識・技術共に一つずつ経験を積んでいきたいと思えます。まだまだ至らない点が多いですが、精一杯努力していきたいと思えますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

中部徳洲会病院 中馬 ひかる

初めまして、四月より中部徳洲会病院に入職しました中馬ひかると申します。入職から4カ月あっという間に経ちましたが、担当病棟を持ってからの2カ月は時間が過ぎていくのが更に早く感じるようになりました。わからないことが多く戸惑いや不安を感じることも多くありますが、周りの先輩たちに教えてもらい助けてもらいながら何とか退院支援業務を行うことができています。制度やサービスだけでなく、調整先の他機関の機能・役割を自分自身が理解した上で調整を進めていかなければ患者様や家族様にも理解を得てもらうのが難しいと感じることが多くあります。周りの方達と連携・協力を図りながら、知識を習得していけるよう努めていきたいと思えます。よろしくお願ひします。



コラム

【目を開けて、もっと私を見て】

R. H

何が見えるの、看護婦さん、あなたには何が見えるの
あなたが私を見る時、こう思っているのでしょうか
気難しいおばあさん、利口じゃないし、日常生活もおぼつかなく
-----中略-----

でも目を開けてごらんなさい。

看護婦さん、あなたは私を見ていないのですよ。

私が誰なのか教えてあげましょう。

ここにじっと座っているこの私が、あなたの命ずるままに起き上がるこの私が、
あなたの意思で食べているこの私が誰なのか。

私は10歳の子供でした。

-----中略-----

年月はあまりにも短すぎ、あまりに速く過ぎてしまったと私は思うの。

そして、何物も永遠ではないという厳しい現実を受け入れるのです。

だから目を開けてよ看護婦さん・・・目を開けてください。

気難いおばあさんではなく「私」をもっとよく見て！

パット・ムーア著 「変装 私は三年間老人だった」(1988年初版)より転載

この詩はイギリスのある老人病院で1人の婦人が亡くなり、彼女の持ち物を片付けていた看護師が見つけたものです。

先日参加した沖縄県若年性認知症支援推進事業の研修で配布された資料の中に、この詩が転載されており、とても刺激を受けました。

例えば「脳梗塞、右麻痺あり、70歳男性、妻と二人暮らし。」の患者さんが入院してくると、私の頭の中では「介護保険の案内と、リハビリ継続が必要であれば回復期に転院。回復期だったら、〇〇病院か□□病院かな。」と、勝手にこんな考案が始まります。

でも患者さんをよく「見て」いないのです。これまでどんな生活を送られてきたのか、本人や家族の想いに寄り添う気持ちが全然足りない！と反省・・・

初心を忘れず、第一に患者家族の気持ちに寄り添うことの大切さを考えさせられるいい機会となりました。



運営委員会

平成29年8月運営委員会議事録

開催日時：2017（平成29）年8月21日（月）18：45～

出席者：樋口、石郷岡、伊禮、又吉（司会）、島袋、大久保、新垣、當銘（書記）

場 所：那覇市立病院

研修部：（香村休み・資料あり・伊禮代理）

■ 初任者研修会

10月1日（日） 場所：仲地胃腸科内科クリニック *1日研修

■ 中堅者研修会

11月19日（日）10時～17時 場所：那覇市立病院 内容：I S T T

講師：小原真千子先生、福山和女先生 定員：50名

参加費：会員 3000円 非会員：6000円

→研修会のチラシを作成し、両講師へ内容確認中

・めだかの学校

9月日程調整中 19時～ 場所：中部徳洲会病院 内容：障害福祉について

- ・めだかの放課後
9月21日(木) 19時～ 場所：中頭病院 内容：九州協議会沖縄大会テーマ検討他
- ・めだかのホームルーム
9月7日(木) 19時～ 場所：嶺井第一病院 内容：事例検討
- ・OGSV
9月13日(水) 18:30～ 場所：那覇市立病院 内容：入退院支援連携デザイン事業
- ・九州協議会中堅者研修
11月24日(金) 14時から19時 場所：長崎ブリックホール
内容：後輩を育てよう～行動科学からのヒント～ 講師：前田直樹氏(九州保健福祉准教授)
- ・九州協議会長崎大会
11月25日(土)～26日(日) 長崎県にて開催予定
- *老健相談員との合同勉強会終了報告(伊禮)
8月15日(水) 14時～ 沖縄県医師会
93名参加(MSW協会35名+実習生10名、老健協会46名+実習生2名)

広報部：(仲地休み)

9月ニュース担当：中部徳洲会病院 與儀 篤

社会活動部：(泰休み・當銘代理)

- ・8月20日(日) 12時～16時 場所：沖縄県コンベンションセンター
要員として23名の会員が参加
用意していたクイズ200部は2時間程度ですべて配布、終了となった

会長：樋口

- ・入退院支援連携デザイン事業の進捗
今年度は5月～予算あり。現在、各市町村説明会などに会長が同行し市町村の課題抽出を行っている。
- 8月25日 県看護協会主催で施設看護師へ包括ケアについて研修開催予定
今年度事業の大きな柱としては①研修と②ガイドライン改定
- ①研修・・・樋口、島袋にて研修案は作成済み
 - ・MSW、退院支援看護師向け研修を2回位実施予定
 - ・モデル事例検討会(市町村、包括支援センター、MSW、ケアマネ等参加)
- ②ガイドライン改定(現在試行版作成)・・・ワーキンググループにて内容吟味予定
→具体的なスケジュール作成のため、各圏域担当者を集め内容を詰める

事務局：當銘

- ・新規入会、退会なし

その他報告

■ 地域両立支援推進チーム参加報告（大久保）

①日本協会にて7/2に都道府県担当者情報共有会議（東京開催）

疾患関係なく就労支援に関していずれ診療報酬への加算も目指している

②沖縄県地域両立支援推進チーム第1回会議開催（7/19）

治療と仕事の両立支援、チームの取り組みについてまずは顔合わせと各々の活動報告がなされた。

今年度はオ（企業向けパンフレットの作成）とカ（患者向けパンフレット）の作成を目指す

厚労省から企業向けガイドラインが作成、配布されている

働き方改革実行計画（抄）にてトライアングル型支援を推奨。両立支援コーディネーターとして社労士や保健師に加え、医療ソーシャルワーカーへの期待が大きい。

→沖縄県MSW協会では会員医療機関51施設へ30部ずつ配布を検討

県医師会にて県内全医療機関へ配布予定

がん拠点病院へは100～300部配布の見込み

次回理事会：9月19日（火）18：30～ 司会：當銘 書記：仲地 連絡係：香村



編集後記

夏真っ盛り。おそらく海水浴や、ビーチパーティーなど夏を満喫している方も多いでしょうね。職場でも日に焼けた方を見かける事があり、何かいいなあと横目でちらちらと羨望のまなざしを向けています。私も夏を感じようと（なぜか）近所を少し走ってみたのですが、あまりに暑くて、たったの数キロの道のりをふらふらになりながら走り（歩き?）、何とか帰宅。何でも無理はいけません！やっぱり私は、屋内で冷たい飲み物とテレビを見ながらゆっくり過ごすのが性にあっているようです。

暑い日はまだまだ続きますの。皆さんも体調にはお気を付けて沖縄の夏をお過ごしください！

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp/>



当協会のホームページのトップページです。ぜひご参照ください。